

1. 最近のニュースや話題から徒然に

この 1 週間、日本と世界の経済の動きでの注目は“米国ニューヨーク株式の暴落”と“日本円の急騰”ではないかと思えます。

2 月 14 日に内閣府が発表した平成 29 年 10～12 月四半期の GDP 成長率は、実質で 0.1%（名目では△0.0%）となり、8 期連続でプラス成長を遂げたとのこと。この事実が吹き飛ばされるような大事件ではないでしょうか。

ちょっと前に「日経平均株価が 24,000 円台を 26 年振りに回復」と報道されたのに、それが今では 21,000 円前後の攻防です。12%強の下落では、証券関係者のみならず、上場企業経営者の心中は穏やかではないはず。

一方の為替相場の動きも注目です。年初には 112 円前後の動きだったのが、現在では 107 円を中心とした売り買いとなっています。5%弱の円高です。各国の購買力平価による円の実力は 100 円程度のようなので、107 円でも「円は安い」と判断されかねません。

これ以上に円高が進んでいけば、輸出主導型企業の業績は悪化するでしょう。上場企業の 7 割が増益という記事も最近目にしましたが、増益幅も縮小するかもしれません。

但し多少の救いを求めるのなら、1990 年代以降、企業の海外投資が進んだことから GDP 成長率に占める外需の依存度が低くなっていることでしょうか。前述の 8 期連続プラス成長においても、外需が△の期間もあったようです。今後も **GDP が成長し続けていくには内需が安定的に拡大していくことが必須の条件**です。

少しだけと綴ってきましたが、**GDP の安定的成長は日本の将来を占う重要な事案である**ことを認識しておく必要があります。少子高齢化が進み、日本全体の活力維持が困難になりつつある中、GDP から得られる所得分配（税金+家計収入+企業利益等）の額が多くなれば、地域社会維持の為の資金的裏づけも得られます。

何故、政界や経済界、マスコミ、有識者達はこの株式市場や為替相場の異変に対し、処方箋等をアナウンスしないのでしょうか。大いに疑問が残ります。日本の今年、そして未来への不安が増幅しています。平昌オリンピックでの日本選手の活躍だけに踊らされてはダメなのです。

2. 継続的な繁栄（継栄）を目指して

京都市に本社がある日本電産(株)は永守重信社長を率いる産業用モーターのトップメーカーです。永守社長の著作の 1 つ“情熱・熱意・執念の経営”では「できないの言葉厳禁、徹底的にできるまでやり続けることを強引に主張するモーレツ型の企業経営」を語っています。

逸話は沢山あります。受注したモーターの仕様書を見て技術者が「できません」。永守社長は「できるを 100 回言え」。100 回言った後でも技術者は「できません」。「ではもう 100 回だ」と繰り返す中で、技術者は「何かやれそうな気になってきました」。「ではやってみろ」。永守社長はこうして創業 40 年で年商 1 兆 2 千億円の企業に育てたのです。

その永守社長が今、「残業をゼロにする」と檄を飛ばしているとのこと。時間外労働も暇な過去の過去を捨て、時間外労働禁止へと大きく舵をとりました。既に 50%は達成しているらしいです。それでも G 年商 3 兆円の旗は降ろしていません。**「仕事の中身、質、集中力を研ぎ澄ます」ことで、時短と生産性向上を同時に達成**しつつあるのです。

3. 平昌オリンピックでの日本選手の活躍

昨日 (2/14) の日本人選手の成績。「凄いな〜」。スピードスケートの女子選手（小平と高木）も「やった〜」ではありますが、注目はノルディック複合の渡部選手とスノーボードの平野選手の活躍です。

両選手とも前回大会と同じ銀メダル。更に、金メダルも前回と同じ選手だったとのこと。4 年前の悔しさを胸に秘めて、この 4 年間どんな努力を重ねてきたのかスポーツ音痴の私には分かりません。NHK ニュースでは小平選手とコーチとの“二人三脚の戦い”を報じていました。根性論ではなく、科学的に課題を抉り出す。そして練習計画を練り上げ、コツコツと地道に練習を続けていく。**強い執念！がなければ成し遂げることができない**でしょう。

2 大会連続の銀メダル。渡部と平野の両選手の偉業を称えると共に、**4 年間も努力を積み重ねてきたことに驚嘆と賞賛を送りたい**と思います。君達のメダルは「限りなく金色に輝く銀メダルだよ」と声をかけてあげたいですね。